

23

# 走れメロス

大宰治 だざいおさむ

めあて

- ① 登場人物の行動や考え方をとらえよう。
- ② 描写や会話に着目して、登場人物の人物像とその変化を読み取るう。

## 基本ワーク

● 新出漢字 ● 新出音訓

### 漢字の学習

#### 1 読み 次の——線の漢字の読みを平仮名で書きなさい。

- ① 主役しやくの衣装いさう。
- ② 人質ひとしちを助ける。
- ③ 巡回くわんかいの警吏けいし。
- ④ 犯人はんじんを捕縛とらする。
- ⑤ 民たみの忠誠ちゅうせい。
- ⑥ 努力どつりくに報むかいる。
- ⑦ 一睡いっすいもしない。
- ⑧ 夕食ゆじきを調える。
- ⑨ 新郎しんやうの登場とうじやう。
- ⑩ 蒸し暑い夏むしあついなげ。
- ⑪ 幸せしあわせな生涯しんがいの。
- ⑫ 歓喜かんぎに酔よう。
- ⑬ 愛あいと誠まことの力ちから。
- ⑭ 闘争とうしやうの開始かいし。
- ⑮ 胴震どうしんいする。
- ⑯ 裸体はだかになる。
- ⑰ 仲間なかまと抱擁だうようする。
- ⑱ 「方歳かたさい。」と叫ぶこゑを。
- ⑰ 四肢ししを投げ出す。
- ⑱ 風体かぜを気にしない。
- ⑲ 波ウツメの姿なみのうつめのすがた。
- ⑲ ハナムコの登場とうじやう。
- ⑳ シュクエンの場しゆくえんのま。

#### 2 書き 次の太字の片仮名を漢字に直しなさい。送り仮名が付くものは、平仮名で送り仮名も書きなさい。

- ① 名演奏なげんそうに陶酔たうすいする。
- ② 敢闘だんとをたたえる。
- ③ 味方あてがひを擁護ようごする。
- ④ 包括くわいかく的な意見いけん。
- ⑤ 相手あてがひを拘束くうそくする。
- ⑥ 辺境へんけいの開拓かいたく。
- ⑦ 寛容くわんやうな精神しんせい。
- ⑧ 便宜べんいをはかる。
- ⑨ 寡黙くわもくな友人ゆうじん。
- ⑩ 発言たつげんをコバム。
- ⑪ テイシユの世話せわ。
- ⑫ じだんだをフム。
- ⑬ トウチャク時間じかん。
- ⑭ アクマのささやき。
- ⑮ 小耳こみみにハサム。
- ⑯ 敵たてをアザムク。
- ⑰ ヒレツな手段しゅだん。
- ⑱ ミニクイ争まがひい。
- ⑲ 義務ぎむのスイコウ。
- ⑳ 荒れクルウ波なみ。
- ㉑ 敵たてをナグリ倒たふす。
- ㉒ ロボウの草原くさげん。

結末	転換	展開	発端
<p>・セリヌンティウスがはりつけられる刑場にメロスが帰ってくる。</p> <p>・一度だけ互いの友情を裏切りそうになったメロスとセリヌンティウスは、互いに頬を殴り合った後、抱き合った。</p> <p>・王は、信実は空虚な妄想ではないと改心する。</p>	<p>・清流の音に目覚めたメロスは、再び走り出す。</p> <p>……疲労回復。信頼に報いなければならぬ。(希望)</p> <p><b>もつと恐ろしく大きいもの(信実)のために走る。</b>↓間に合った。</p>	<p>・故郷への未練を絶ち、友情と信実のためにメロスは王城へ向かう。</p> <p>・氾濫した川や山賊など……愛と誠の力と正義で乗り越える。</p> <p>・心身の疲労……悪徳者として生き延びようか……眠ってしまう。試練</p>	<p>・メロスは、人を信じられぬ王が人を殺すと聞き、激怒する。</p> <p>・メロスは王に町を暴君の手から救うつもりであることを告げる。</p> <p>・メロスの言葉に王は憫笑し、人間は私欲の塊だと言う。</p> <p>・死刑も覚悟したメロスだが、妹の結婚式のために三日の猶予を頼み、親友セリヌンティウスを人質にする。</p> <p>・一夜をかけ帰郷したメロスは妹の結婚式を調える。</p>
練習問題4	練習問題3 / 練習問題2	練習問題1	
完成テスト			

**1** 文章の概要 物語の展開を押さえる。

- 学習のポイント**
- ① 着信のキヨヒ。
  - ② クウドウの幹。
  - ③ セキヒを訪ねる。
  - ④ 役員ホウシユウ。
  - ⑩ 商いを始める。
  - ⑪ 己の生活。
  - ⑫ 支障を来す。
  - ⑬ 挨拶を交わす。
  - ⑭ 自己を省みる。
  - ⑮ 機嫌を損ねる。

**2** 書き 次の太字の片仮名を漢字に直しなさい。

**2** 描写や会話から、登場人物の人物像とその変化を読み取る。

・メロス <王城内> 「町を暴君の手から救うのだ。……悪びれずに答えた。」

「人の心を疑うのは、最も恥ずべき悪徳だ。」

↓信実を重んじ、権力者にも考えを率直に言う。

<心身の疲労> 「正義だの、信実だの、愛だの、……くだらない。」

← <刑場内> 「私を殴れ。……私は、途中で一度、悪い夢を見た。」

↓裏切りを正直に告白して信実を貫く姿勢。

・王 <王城内> 「人間は、もともと私欲の塊さ。信じては、ならぬ。」

「残虐な気持ちで……ほくそ笑んだ。……残虐で人間不信。」

<刑場内> 「信実とは、決して空虚な妄想ではなかった。」

↓人への信用を回復する。

文章の流れを押さえよう

文章の概要を参考にして書きましょう。

① メロスは、何のために王城へと入っていったのですか。

② メロスは、王とどのような約束をしましたか。

③ 物語の最初と最後で、王はどのように考え方が変わりましたか。

が、

人間は

だと言い、人間を信用していなかった

ではないと理解した。

練習問題 1

教科書182～184ページより

◆ 次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。

「町を暴君の手から救うのだ。」とメロスは、悪びれずに答えた。  
 「おまえがが？」王は、憫笑した。「しかたのないやつじゃ。おまえなどには、わしの孤独の心がわからぬ。」

「言うな！」とメロスは、いきり立って反駁した。「人の心を疑うのは、最も恥ずべき悪徳だ。王は、民の忠誠をさえ疑っておられる。」  
 「疑うのが正当の心構えなのだ、わしに教えてくれたのは、おまえたちだ。人の心は、あてにならない。人間は、もともと私欲の塊。信じ

ては、ならぬ。」暴君は落ち着いてつぶやき、ほっとため息をついた。  
 「わしだって、平和を望んでいるのだが。」

「何のための平和だ。自分の地位を守るためか。」今度はメロスが嘲笑した。  
 「罪のない人を殺して、何が平和だ。」

「黙れ。」王は、さつと顔を上げて報いた。「口では、どんな清らかなことでも言える。わしには、人のほらわたの奥底が見え透いてならぬ。おまえだって、今にはりつけになってから、泣いてわびたつて聞かぬぞ。」  
 「ああ、王はりこうだ。うぬぼれているがよい。私は、ちゃんと死ぬる

覚悟でいるのに。命ごいなど決してしない。ただ、——」と言いかけて、メロスは足元に視線を落とし、瞬時ためらい、「ただ、私に情けをかけたいつもりなら、処刑までに三日間の日限を与えてください。たった一人の妹に、亭主をもたせてやりたいのです。三日のうちに、私は村で結婚式を挙げさせ、必ず、ここへ帰ってきます。」

「ばかな。」と暴君は、しゃがれた声で低く笑った。「とんでもないうそを言うわい。」  
 逃がした小鳥が帰ってくると言うのか。」

「そうです。帰ってくるのです。」メロスは必死で言い張った。「私は約

□ (1) 内容理解 — 線①「暴君」とあるが、メロスはなぜ王を「暴君」とよんでいるのか。次の文の□に当てはまる言葉を文章中から抜き出しなさい。

王が \_\_\_\_\_ を疑い、 \_\_\_\_\_

いるから。

□ (2) 心情 — 線②「メロスが嘲笑した」とあるが、なぜか。最も適切なものを次の中から選びなさい。

- ア 王の言葉が実際の行動と矛盾しているから。
- イ 王が身勝手な人間であることがわかったから。
- ウ 王の人柄を誤解していたことに気づいたから。
- エ 王が自分の地位にこだわるのがおかしいから。

□ (3) 人物の考え — 線③「人の……見え透いてならぬ」とあるが、王には人の心がどのようなものに見えるのか。文章中から四字で抜き出しなさい。

\_\_\_\_\_

□ (4) 人物の考え — 線④「逃がした小鳥が帰ってくると言うのか」とあるが、王はどう考えているのか。簡潔に答えなさい。

メロスは \_\_\_\_\_ と考えている。

□ (5) 心情 — 線⑤「そつとほくそ笑んだ」とあるが、このときの王の気持ちとして、最も適切なものを次の中から選びなさい。

ア 王に逆らったメロスの、大切な友を衆人の前で磔刑に処すれば、王に反発を感じている者たちへのいい見せしめになるとわくわくしている。

● 語句にチャレンジ

1 次の対義語を後から選びなさい。

① 正当

ア 無当      イ 非当      ウ 未当      エ 不当

② 陽気

ア 短気      イ 元気      ウ 陰気      エ 内気

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

東を守ります。私を三日間だけ許してください。妹が私の帰りを待っているのだ。そんなに私を信じられないならば、よろしい、この町にセリヌンティウスという石工がいます。私の無二の友人だ。あれを人質としてここに置いていこう。私が逃げてしまつて、三日目の日暮れまで、ここに帰つてこなかったら、あの友人を絞め殺してください。頼む。そうしてください。」

それを聞いて王は、残虐な気持ちで、<sup>⑤</sup>そつとほくそ笑んだ。生意気なことを言うわい。どうせ帰つてこないに決まっている。このうそつきにだまされたふりして、放してやるのもおもしろい。そうして身代わりの男を、三日目に殺してやるのも気がいい。人は、これだから信じられぬと、わしは悲しい顔して、その身代わりの男を磔刑に処してやるのだ。35世の中の、正直者とかいうやつばらにうんと見せつけてやりたいものさ。<sup>⑥</sup>「願いを聞いた。その身代わりを呼ぶがよい。三日目には日没までに帰つてこい。遅れたら、その身代わりを、きつと殺すぞ。ちよつと遅れてくるがいい。おまえの罪は、永遠に許してやろうぞ。」

「なに、何をおっしゃる。」  
「はは。命が大事だったら、遅れてこい。おまえの心は、わかっているぞ。」  
<sup>⑦</sup>メロスは悔しく、じだんだ踏んだ。ものも言いたくなくなった。  
(太宰治「走れメロス」より)

40

30

イ 友人を身代わりに差し出し、自分は罪を逃れようとするメロスに対し、あまりに自分勝手に残酷だと憤りを感じている。

ウ メロスの裏切りを期待し、人は信じられないものだとなんに思い知らせることのできる好機だと、皮肉な喜びを感じている。

エ メロスの願いを聞くことで、寛大で信頼のできる王だという評判を得ることができると違いないと期待している。

□ (6) 内容理解 — 線⑥「願い」とは、どのようなことか。「人質」「日限」の二語を用いて、簡潔に答えなさい。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

□ (7) 心情 — 線⑦「メロスは悔しく、じだんだ踏んだ。ものも言いたくなくなった」とあるが、なぜか。文章中の言葉を用いて簡潔に書きなさい。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

□ (8) 人物像 この文章から読み取れるメロスと王の人物像を、次の中からそれぞれ選びなさい。

メロス \_\_\_\_\_

王 \_\_\_\_\_

ア 正義のためにはどんなことをしてもかまわないと考える非情な人物。  
イ 残虐な心もち、人は信用できないものだとし心を閉ざしている人物。  
ウ いつも他人を恐れ、自分がだまされないと常に常におびえている人物。  
エ 内心は人を信じているが、照れくさくて自分の心を表に出せない人物。  
オ 感情を素直に表に出し、人を信じることや正義を重んじる人物。

練習問題 2

教科書 186～188 ページより

◆ 次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。

目が覚めたのは、明るく日の薄明のころである。メロスは跳ね起き、南無三、寝過ぎしたか、いや、まだまだ大丈夫、これからすぐに出発すれば、約束の刻限までには十分間に合う。今日はぜひとも、あの王に、<sup>①</sup>人の信実の存するところを見せてやろう。そうして笑ってはりつけの台に上ってやる。メロスは、悠々と身支度を始めた。雨も、幾分小降りになっ<sup>②</sup>ていて様子である。身支度はできた。さて、メロスは、ぶるんと両腕を大きく振って、雨中、矢のごとく走り出た。

私は、今宵、殺される。殺されるために走るのだ。身代わりの友を救うために走るのだ。王の奸佞邪知を打ち破るために走るのだ。走らなければならぬ。そうして、私は殺される。若いときから名誉を守れ。さらば、ふるさと。若いメロスは、つらかった。幾度か、立ち止まりそうになった。<sup>③</sup>えい、えいと大声上げて、自身をしっかりと走った。村を出て、野を横切り、森をくぐり抜け、隣村に着いたころには雨もやみ、日は高く昇って、そろそろ暑くなってきた。メロスは額の汗を拳で<sup>④</sup>はらい、ここまで来れば大丈夫、もはや故郷への未練はない。妹たちは、きっとよい夫婦になるだろう。私には、今、なんの気がかりもないはずだ。まっすぐに王城に行き着けば、それでよいのだ。そんなに急ぐ必要もない。ゆっくり歩こう、と持ち前ののんきさを取り返し、好きな小歌をいい声で歌いだした。ぶらぶら歩いて二里行き三里行き、そろそろ全里程の半ばに到達したころ、降<sup>④</sup>ってわいた災難、メロスの足は、はたと止まった。20見よ、前方の川を。昨日の豪雨で山の水源<sup>⑤</sup>地は氾濫し、濁流ととうとうと下流に集まり、猛勢一挙に橋を破壊し、<sup>⑥</sup>どうどうと響きをあげる激流が、こっぴみじん<sup>⑥</sup>に橋げたを跳ね飛ばしていた。彼は茫然と立ちすくんだ。あちこちと眺め回し、また、声を限りに呼び立ててみたが、繫舟は残ら

□ (1) 内容理解 — 線①「人の信実……見せてやろう」とは、具体的にどんなことをすることか。次の中から適切でないものを選びなさい。

- ア 自分は殺されることになっても名誉を守ること。
- イ 自分を信じ、身代わりになってくれた友の命を救うこと。
- ウ 結果はともかく、できる限りの誠意を尽くすこと。
- エ 王の思惑に打ち勝ち、自分の正しさを見せること。

□ (2) 心情 — 線②「メロスは、ぶるんと……走り出た」とあるが、メロスのこの行動は、どんな気持ちの表れと考えられるか。最も適切なものを次の中から選びなさい。

- ア 自身を奮い立たせる気持ち。
- イ 不安におびえる気持ち。
- ウ 余裕のあるのどかな気持ち。
- エ 楽しくてわくわくする気持ち。

□ (3) 心情 — 線③「えい、えいと……走った」とあるが、なぜ自身をしっかりと走ったのか。文章中の言葉を用いて、簡潔に書きなさい。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

□ (4) 内容理解 — 線④「降ってわいた災難」とは何のことか。次の文の□に当てはまる言葉を、文章中から抜き出さなさい。

○濁流が下流に集まり、□が□され、□が渡れなくなっていること。

○繫舟が全て□てしまい、□の姿も見えず、川を舟で渡ることができないこと。

● 語句にチャレンジ

1 次の語句の意味を下から選びなさい。

- ・ 竹馬の友 ア 異性の友人。 イ 遠方の友人。
- ウ 幼なじみ。 エ いとこ。

2 次の語句と組み合わせるときに、一つの語句として成立しないものを下から選びなさい。

- ① 夢 ア 心地 イ 気持ち
- ウ 物語 エ うつつ
- ② 独り ア 舞台 イ 合点
- ウ 相撲(すもう) エ 演台

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

ず波にさらわれて影なく、渡し守の姿も見えない。流れはいよいよふくれ上がり、海のようになっている。メロスは川岸にうづくまり、男泣きに泣きながらゼウスに手を上げて哀願した。「ああ、しずめたまえ、荒れ狂う流れを！ 時は刻々に過ぎていきます。太陽も既に真昼時です。あれが沈んでしまわぬうちに、王城に行き着くことができなかつたら、あのよい友達が、私のために死ぬのです。」

濁流は、メロスの叫びをせせら笑うごとく、ますます激しく躍り狂う。波は波をのみ、巻き、あおり立て、そうして、時は刻一刻と消えていく。今はメロスも覚悟した。泳ぎ切るより他にない。ああ、神々も照覧あれ！ 濁流にも負けぬ愛と誠の偉大な力を、今こそ發揮してみせる。メロスはざんぶと流れに飛び込み、百匹の大蛇のようにのたうち荒れ狂う波を相手に、必死の闘争を開始した。満身の力を腕に込めて、押し寄せ渦巻き引きずる流れを、なんのこれしきとかき分けかき分け、獅子奮迅の人の子の姿には神も哀れと思ったか、ついに憐愍を垂れてくれた。押し流されつつも、見事、対岸の樹木の幹にすがりつくことができたのである。

(太宰治「走れメロス」より)

30

□ (5) 表現技法 〰〰〰線 a 〰 c に用いられている表現技法を、次の中からそれぞれ選びなさい。

- ア 直喩法
- イ 隠喩法
- ウ 擬人法
- エ 倒置法
- オ 擬音語

□ (6) 心情 〰線 ⑤ 「男泣きに泣きながら」とあるが、メロスが泣いたのはなぜか。最も適切なものを次の中から選びなさい。

- ア 王城に帰れないことがわかったので、友人が自分のために死んでしまう事実に関心を痛めたから。
- イ 今この川を渡ることができなければ、王との約束である夕刻までに戻れず、友人が殺されてしまうから。
- ウ こんなにも荒れ狂う川を渡ろうとすると、自分の命さえも危険にさらさなければならなくなるから。
- エ 自分の願いを聞き入れてくれずに試練ばかりを与える天の神々に対し、その非情さに怒りを覚えたから。

□ (7) 心情 〰線 ⑥ 「メロスも覚悟した」とあるが、メロスはどのようなことを「覚悟」したのか。簡潔に答えなさい。

\_\_\_\_\_

□ (8) 人物像 この文章から、メロスのどのような人物像が読み取れるか。次の文の□に当てはまる言葉を、文章中から抜き出しなさい。

自分の \_\_\_\_\_ を守るために、 \_\_\_\_\_ を \_\_\_\_\_

断ち切ることができる強さをもつ一方、「そんなに急ぐ必要もない」と思う \_\_\_\_\_ など、生来の \_\_\_\_\_ もあわせもつ人物。

練習問題 3

教科書188～190ページより

◆ 次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。

一気に峠を駆け降りたが、さすがに疲労し、折から午後の灼熱しやうねつの太陽がまともにかつと照ってきて、メロスは幾度となくめまいを感じ、これではならぬと気を取り直しては、よろよろ二、三步歩いて、ついに、がくりと膝ひざを折った。立ち上がることができぬのだ。天をおおいで、悔いし泣きに泣きだした。ああ、あ、濁流を泳ぎ切り、山賊を三人も打ち倒し、5韋駄天いだてん、ここまで突破してきたメロスよ。真の勇者、メロスよ。今、ここで、疲れ切って動けなくなるとは情けない。愛する友は、おまえを信じたばかりに、やがて殺されなければならぬ。おまえは、希代②の不信の人間、まさしく王の思いつぼだぞと自分をしかつてみるのだが、全身なえて、もはや芋虫ほどにも前進かなわぬ。路傍の草原にごろりと寝転がった。身体疲労すれば、精神も共にやられる。もう、どうでもいいという、勇者に不似合いなふてくされた根性が、心の隅に巣くった。私は、これほど努力したのだ。約束を破る心は、みじんもなかった。神も照覧、私は精いっぱいに努めてきたのだ。動けなくなるまで走ってきたのだ。私は不信の徒ではない。ああ、④できることなら私の胸をたち割って、真紅の心臓をお目にかきたい。愛と信実の血液だけで動いているこの心臓を見せてやりたい。けれども私は、この大事なときに、精も根も尽きたのだ。私は、よくよく不幸な男だ。私は、きつと笑われる。私の一家も笑われる。私は友を欺いた。中途で倒れるのは、初めからなにもしないのと同じことだ。ああ、⑤もう、どうでもいい。これが、私の定まった運命なのかもしれない。セリヌンティウスよ、許してくれ。君は、いつても私を信じた。私も君を欺かなかつた。私たちは、本当によい友と友であつたのだ。一度だつて、暗い疑惑の雲を、お互い胸に宿したことはなかつた。今だつて、君は私を無心に待っているだろう。ああ、待っている

□ (1) 心情 — 線①「悔し泣きに泣きだした」とあるが、泣きだしたメロスの気持ちとして最も適切なものを次の中から選びなさい。

- ア こんなにも頑張っているのに、王が信実を理解しないことが悲しい。
- イ もう一歩も歩けぬほどに疲れているのに、休めないのがつらい。
- ウ 信実のために進まねばならぬのに、疲労で一歩も進めず自分がふがない。
- エ ここまで全力で進んできた自分の姿が感動的で、胸がいっぱいだ。

□ (2) 内容理解 — 線②「希代の不信の人間」について、次の問いに答えなさい。

□ ① 「希代の不信の人間」とは、どんなメロスを表現した言葉か。次の文の□に当てはまる言葉を文章中の言葉を用いて答えなさい。

力尽きて結果的に □ ことになってしまうメロス。

□ ② 「希代の不信の人間」と同じ気持ちを込めてメロス自身を表現した言葉を、文章中から七字、十一字、六字で抜き出しなさい。

□	□	□
---	---	---

□ (3) 心情 — 線③の①～⑤「ああ」は、どのような気持ちで言っているか。前後

のメロスの言葉から考えて当てはまるものを次の中からそれぞれ選びなさい。

□ ① □ ② □ ③ □ ④ □ ⑤

ア 自分の中にある信実を信じてもらいたい気持ち。

● 語句にチャレンジ

1 次の語句を用いて、短文を作成しなさい。

・ ひるむ

るだろう。ありがとう、セリヌンティウス。よくも私を信じてくれた。<sup>④</sup> それを思えば、たまらない。友と友の間の信実しんじつは、この世でいちばん誇るべき宝なのだからな。セリヌンティウス、私は走ったのだ。君を欺ほごくつもりは、みじんもなかった。信じてくれ！ 私は急ぎに急いでこま  
で来たのだ。濁流を突破した。山賊の囲みからも、するりと抜けて一  
気に峠を駆け降りてきたのだ。私だからできたのだよ。<sup>⑤</sup> ああ、このうえ、  
私に望みたもうな。放っておいてくれ。どうでもいいのだ。私は負けた  
のだ。だらしがない。笑ってくれ。王は私に、ちよつと遅れてこい、と  
耳打ちした。遅れたら、身代わりを殺して、私を助けてくれると約束し  
た。私は王の卑劣をにくんだ。けれども、今になってみると、私は王の  
言うままになっている。私は遅れていくだろう。王は、<sup>⑥</sup> 独り合点がてんして私  
を笑い、そうしてこともなく私を放免するだろう。そうなつたら、私は、  
死ぬよりつらい。私は、永遠に裏切り者だ。地上で最も不名誉めいよの人種だ。  
セリヌンティウスよ、私も死ぬぞ。君といっしょに死なせてくれ。君だ  
けは私を信じてくれるにちがいない。いや、それも私の、独りよがりか？  
<sup>④</sup> ああ、もういつそ、悪徳者として生き延びてやろうか。村には私の家が  
ある。羊もいる。妹夫婦は、まさか私を村から追い出すようなことはし  
ないだろう。正義だの、信実だの、愛だの、考えてみればくだらない。  
人を殺して自分が生きる。それが人間世界の定法じやうぽうではなかったか。ああ、  
なにかもばかばかしい。私は醜い裏切り者だ。どうとも勝手にするが  
よい。やんぬるかな。——四肢を投げ出して、うとうと、まどろんでし  
まった。  
(太宰治「走れメロス」より) 45

イ 自分の身にふりかかった不幸を嘆き悲しむ気持ち。  
ウ 運命にこじつけてあきらめようとする気持ち。  
エ 開き直って、とにかく自分を守ろうとする気持ち。  
オ どうにでもなれと全て投げ出してしまおうとする気持ち。  
カ 自分の努力を認めてほしいが、もう限界だという気持ち。

□ (4) **内容理解** —— 線③「暗い疑惑の雲」とは何のことか。簡潔に答えなさい。

□ (5) **心情** —— 線④「それを思えば、たまらない」とあるが、メロスが「たま  
らない」と思うのはなぜか。次の文の( )に当てはまる言葉を文章中から抜  
き出しなさい。  
この世でいちばん誇るべき宝は( )である

( )に、自分を( )  
くれているセリヌンティウスを( )  
ような行為を自分がしようとしているから。

□ (6) **内容理解** —— 線⑤「王は、独り合点して」とあるが、どのように独り合  
点するとメロスは考えているのか。文章中の言葉を用いて答えなさい。

□ (7) **人物像** この文章では、メロスのどのような面が読み取れるか。次の文の  
( )に当てはまる言葉を簡潔に答えなさい。

勇者であるメロスらしからぬ( )面。



## 練習問題 4

教科書192～195ページより

◆ 次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。

「やめてください。走るのはやめてください。今はご自分のお命が大事です。あの方は、あなたを信じておりました。刑場に引き出されても、平気でいました。王様がさんざんあの方をからかっても、メロスは来ますとだけ答え、強い信念をもち続けている様子でございました。」

「それだから、走るのだ。□から走るのだ。間に合う、間に合わぬは問題でないのだ。人の命も問題でないのだ。私は、なんだか、もつと恐ろしく大きいもののために走っているのだ。ついてこい！ フィロストラトス。」

「ああ、あなたは気が狂ったか。それでは、うんと走るがいい。ひよつとしたら、間に合わぬものでもない。走るがいい。」

言うにや及ぶ。まだ日は沈まぬ。最後の死力を尽くして、メロスは走った。メロスの頭は空っぽだ。何一つ考えていない。ただ、わけのわからぬ大きな力に引きずられて走った。日はゆらゆら地平線に没し、まさに最後の一片の残光も消えようとしたとき、メロスは疾風のごとく刑場に突入した。間に合った。

「待て。その人を殺してはならぬ。メロスが帰ってきた。約束のとおり、今、帰ってきた。」と、大声で刑場の群衆に向かって叫んだつもりであったが、喉がつかれてしゃがれた声がかすかに出たばかり、群衆は、一人として彼の到着に気がつかない。既に、はりつけの柱が高々と立てられ、縄を打たれたセリヌンティウスは徐々につり上げられてゆく。メロスはそれを目撃して最後の勇、先刻、濁流を泳いだように群衆をかき分けかき分け、「私だ、刑吏！ 殺されるのは、私だ。メロスだ。彼を人質にした私は、ここにいる！」と、かすれた声で精いっぱい叫びながら、ついにはりつけ台に上り、つり上げられてゆく友の両足にかじりついた。群衆はど

(1) 内容理解

選びなさい。

- ア 死にたくない  
イ 王に見せたい  
ウ 信じられている  
エ ここまで来た

(2) 内容理解 — 線①「もつと恐ろしく……走っている」について、次の問いに答えなさい。

□(a) 「もつと恐ろしく大きいもの」とほぼ同じ内容を表す言葉を、文章中から十一字で抜き出しなさい。


□(b) この場面で、メロスはなぜ走っているのか。最も適切なものを次の中から選びなさい。

- ア 身代わりになっている友人を死なせないため。  
イ からかう王のゆがんだ心を直すため。  
ウ 自分の信じるところをまっとうするため。  
エ 自分の命を惜しむ気持ちなどないところを示すため。

□(3) 表現 メロスが日没寸前に刑場に勢いよく入り込んだことが表現されている一文を文章中から探し、初めの五字を抜き出しなさい。


□(4) 心情 — 線②・③「私を殴れ」とあるが、二人は自分がどんなことをしたので、「私を殴れ」と言ったのか。②メロス、③セリヌンティウスそれぞれについて具体的に答えなさい。

② \_\_\_\_\_

③ \_\_\_\_\_

よめいた。あつぱれ。許せ、と口々にわめいた。セリヌンティウスの縄は、ほどかれたのである。

「セリヌンティウス。」メロスは目に涙を浮かべて言った。「私を殴れ。」<sup>②</sup>

力いっぱい頬を殴れ。私は、途中で一度、悪い夢を見た。君がもし私を殴ってくれなかったら、私は君と抱擁する資格さえないのだ。殴れ。」

セリヌンティウスは、全てを察した様子でうなずき、刑場いっぱい鳴り響くほど音高くメロスの右頬を殴った。殴ってから優しくほほ笑み、

「メロス、私を殴れ。同じくらい音高く私の頬を殴れ。私はこの三日の間、たった一度だけ、ちらと君を疑った。生まれて初めて君を疑った。君が私を殴ってくれなければ、私は君と抱擁できない。」

メロスは腕にうなりをつけてセリヌンティウスの頬を殴った。

「ありがとう、友よ。」二人同時に言い、ひしと抱き合い、それからうれし泣きにおいおい声を放って泣いた。<sup>④</sup>

群衆の中からも、歎歎の音が聞こえた。暴君ディオニスは、群衆の背後から二人のさまをまじまじと見つめていたが、やがて静かに二人に近づき、顔を赤らめて、こう言った。

「おまえらの望みはかなったぞ。おまえらは、わしの心に勝ったのだ。信実とは、決して空虚な妄想ではなかった。どうか、わしも仲間に入れてくれまいか。どうか、わしの願いを聞き入れて、おまえらの仲間の一人にしてほしい。」

(太宰治「走れメロス」より)

40

35

□ (5) **心情** —— 線④「おいおい声を放って泣いた」のはなぜか。最も適切なものを次の中から選びなさい。

ア 二人の命がこれで助かったことに安心したから。

イ 二人の友情と信頼を確かめ合えてうれしかったから。

ウ 約束は守られたが、メロスは死刑になるから。

エ 一度裏切った事実はもう取り返しがつかないから。

□ (6) **心情** —— 線⑤「顔を赤らめ」た様子から、王のどのような気持ちが読み取れるか。次の文の〔 〕に当てはまる言葉を簡潔に答えなさい。

取れるか。次の文の〔 〕に当てはまる言葉を簡潔に答えなさい。

今までの自分を

〔 〕 気持ち。

□ (7) **心情** —— 線⑥「わしの心」とはどのような心か。次の文の□に当てはまる言葉を文章中から抜き出しなさい。

まる言葉を文章中から抜き出しなさい。

信実は


だという、人間不信の心。

□ (8) **人物像の変化** 暴君であった王は、最後にどのような人物として描かれているか。「信実」の一語を用いて簡潔に答えなさい。

いるか。「信実」の一語を用いて簡潔に答えなさい。

定期テストでよく問われる

1 登場人物の人物像や考え方の変化

メロス……信実の存するところを重んじる。↓信実などくだらない。

↓恐ろしく大きいものために走る。(信実への確固たる信念へ)

練習問題 1 (8) / 2 (8) / 3 (3) / 4 (2) / 完成テスト (2) (4) (6) (10)

王……人間への不信心。「人間は私欲の塊」↓信実は空虚な妄想などではなかった。(人間への信頼の回復) 練習問題 1 (8) / 4 (6) (7) (8)

完成テスト

12

走れメロス

大宰治 だざい じ

得点

/100点

■ 次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。

神も照覧、私は精いっぱいに努めてきたのだ。動けなくなるまで走ってきたのだ。① 私は不信の徒ではない。ああ、できることなら私の胸をたち割って、② 真紅の心臓をお目にかきたい。愛と信実の血液だけで動いているこの心臓を見せてやりたい。けれども私は、この大事なときに、精も根も尽きたのだ。私は、よくよく不幸な男だ。私は、きつと笑われる。私の一家も笑われる。私は友を欺いた。中途で倒れるのは、初めからなにもしないのと同じことだ。ああ、もう、どうでもいい。これが、私の定まった運命なのかもしれない。セリヌンティウスよ、許してくれ。君は、いつでも私を信じた。私も君を欺かなかった。私たちは、本当によい友と友であったのだ。一度だって、暗い疑惑の雲を、お互い胸に宿したことはなかった。今だって、君は私を無心に待っているだろう。ああ、待っているだろう。ありがとう、セリヌンティウス。よくも私を信じてくれた。それを思えば、たまらない。友と友の間の信実は、この世でいちばん誇るべき宝なのだから。セリヌンティウス、私は走ったのだ。君を欺くつもりは、みじんもなかった。信じてくれ！ ③ 私は急ぎに急いでここまで来たのだ。濁流を突破した。サンゾクの囲みからも、するりと抜けて一気に峠を駆け降りてきたのだ。私だからできたのだよ。ああ、このうえ、私に望みたもうな。放っておいてくれ。どうでもいいのだ。私は負けたのだ。だらしがない。笑ってくれ。王は私に、ちよつと遅れてこい、と耳打ちした。遅れたら、身代わりを殺して、私を助けてくれると約束した。私は王のヒレツをにくんだ。けれども、今になってみると、私は王の言うままになっている。私は遅れていくだろう。王は、独り合点して私を笑い、そうしてこともなく私を放免するだろう。そうになったら、私は、死ぬよりつらい。私は、永遠に

(1) 線⑦(オ)の片仮名は漢字で、漢字は読み方を平仮名で書いて答えなさい。 (各2-10点)

エ	ア
い	イ
オ	ウ

(2) 頻出 線①「私は不信の徒ではない」とあるが、メロスは自分をどのような人間だというのか。次の文の□に当てはまる言葉を文章中から四字で抜き出さなさい。 (10点)

を何よりも大切に生きる人間。

(3) 線②「精も根も尽きた」の意味を簡潔に答えなさい。 (5点)

(4) メロスは、セリヌンティウスとの友情をどのようなものと考えているか。文章中から十五字以内で抜き出さなさい。 (10点)

(5) 線③「私は急ぎに急いで……駆け降りてきたのだ」は、どんな気持ちから発せられた言葉か。適切でないものを次の中から選びなさい。 (10点)

- ア 約束を破ることに對して言い訳する気持ち。
- イ 勇敢な行動を誇らしく思い自慢したい気持ち。
- ウ 欺くつもりはなかったことを証明したい気持ち。
- エ 自分の誠意を伝え、許してもらいたい気持ち。

裏切り者だ。地上で最も不名誉の人種だ。セリヌンティウスよ、私も死ぬぞ。君といっしょに死なせてくれ。君だけは私を信じてくれるにちがいない。いや、それも私の、独りよがりか？ ああ、もういっそ、悪徳者として生き延びてやろうか。村には私の家がある。羊もいる。妹夫婦は、まさか私を村から追い出すようなことはしないでらう。正義だの、信実だの、愛だの、考えてみればくだらない。人を殺して自分が生きる。それが人間世界の定法ではなかったか。ああ、なにもかもばかばかしい。私はミニクイ裏切り者だ。どうとも勝手にするがよい。やんぬるかな。――四肢を投げ出して、うとうと、まどろんでしまった。

ふと耳に、せんせん、水の流れる音が聞こえた。そつと頭をもたげ、息をのんで耳を澄ました。すぐ足元で、水が流れているらしい。よろよろ起き上がって、見ると、岩の裂け目からこんこんと、何か小さくささやきながら清水がわき出ているのである。その泉に吸い込まれるようにメロスは身をかがめた。水を両手ですくって、一口飲んだ。ほうと長いため息が出て、夢から覚めたような気がした。歩ける。行こう。肉体の疲労回復とともに、わずかながら希望が生まれた。義務遂行の希望である。我が身を殺して、名誉を守る希望である。斜陽は赤い光を木々の葉に投げ、葉も枝も燃えるばかりに輝いている。日没までには、まだ間がある。私を待っている人があるのだ。少しも疑わず、静かに期待してくれている人があるのだ。私は信じられている。私の命なぞは問題ではない。死んでおわびなどと、気のいいことは言っておられぬ。私は信頼に報いなければならぬ。今はただその一事だ。走れ！ メロス。

私は信頼されている。私は信頼されている。先刻の、あの悪魔のささやきは、あれは夢だ。悪い夢だ。忘れてしまえ。五臓が疲れているときは、ふいとあんな悪い夢を見るものだ。メロス、おまえの恥ではない。やはり、おまえは真の勇者だ。再び立って走れるようになったではないか。ありがたい！ 私は正義の士として死ぬことができるぞ。ああ、日が沈む。ずんずん沈む。待ってくれ、ゼウスよ。私は生まれたときから正直な男であった。正直な男のままにして死なせてください。(太宰治「走れメロス」より)

25

30

35

40

45

50

(6) 線④「ああ、もう……生き延びてやろうか」とはどういうことか。「友」

「自分」の一語を用いて簡潔に答えなさい。(10点)

(7) 線⑤「肉体の疲労回復……希望が生まれた」とあるが、メロス

に生まれた「希望」とはどのようなものか。最も適切なものを次の中から選

- ア 友との約束を守り、信実を貫き通す希望。
- イ 友の命を助け、自分の名声を高める希望。
- ウ 王の信頼に報い、自分の命が助かる希望。
- エ 王の言うままになり、王を喜ばせる希望。

(8) 線⑥「走れ！ メロス」という言葉から、メロスのどのような気持ち

がわかるか。次の文の( )に当てはまる言葉を簡潔に答えなさい。(10点)

(9) 線⑦「ああ」に込められた気持ちとして、最も適切なものを次の中

- ア 感嘆
- イ 焦燥
- ウ 希望
- エ 絶望

(10) 線⑧「正直な男のままにして死なせてください」から、メロス

のどのような気持ちがかかるか。次の文の□に当てはまる言葉を文章なか

ら抜き出さない。(各5・15点)

日没より遅れて到着し

友の □ に報い、自分の □ を守って死にたい。